



ありす会報

Vol. 10
1998.3.23

発行/國學院短期大学
ありす会
〒073-0014
北海道滝川市文京町3丁目1番1号
TEL 0125-23-4111(代)

CONTENTS

1. 学科長メッセージ
2. 母校の今昔
3. " 学長メッセージ
4. Close up 一弓道部の今昔
5. 大家さんからみた学生今昔
サークル活動の今昔
6. 会長メッセージ/会務報告
7. メンバーズインタビュー/ありす祭見学記
8. 子連れ留学/「論文・創作コンクール」について/インフォメーション

特集

母校の今昔

国文科長

狩俣恵一教授



国文科卒業生の皆さんお元気ですか、私も元気です。

国文科では、『滝川国文』『滝川文芸』『アイヌの口承文芸』という雑誌を発行していますが、卒業生は格安で購入できます。安田・狩俣まで電話して下さい。

英語科長

樋口隆士助教授



ありす祭では海外援助をテーマに講演と討議。外国のゲストとのパーティーで盛り上がる。

研究発表会、講演は1回生の藤岡順子さん。子連れ留学談に後輩は刺激を受ける。

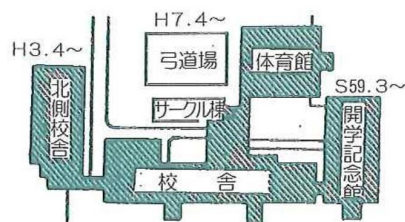
海外研修はシドニー。オペラを鑑賞、花火大会を楽しむ。

幼児教育科長

吉野幸男教授

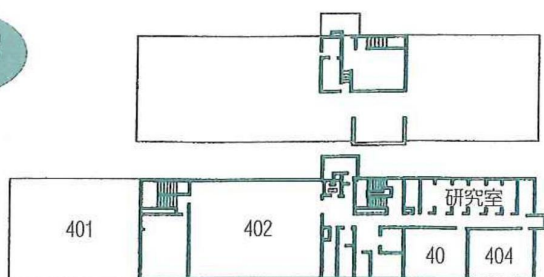


今年度の幼児教育研究会と芸術文化祭はありす祭の最終日に実施しました。オペレッタ、創作舞踊、ミュージックベルと手話の歌、そして栗山ハローブラザーズのコンサートです。とても盛り上がりました。卒業生のみなさん、次回には是非おいで下さい。

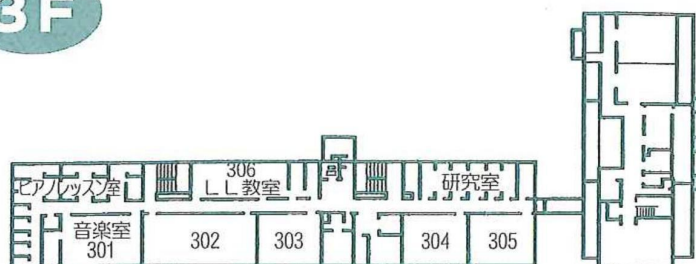


昭和五十七年四月に「國學院女子短期大学」は開学しました。
 (平成三年四月に「國學院短期大学」に校名変更し、男女共学に移行) 一期生が巣立ってから早十四年の歳月が流れたのです。卒業してから滝川に、そして母校を訪れた方はいらっしゃいますか。
 校舎内も開学当初からはずいぶんと様子が変わっています。この二三年のうちに卒業された方でも平成九年四月からの学内「土足解禁」にはきつと驚かれることでしょう。
 平成十年十月、「ありす会総会」は母校を会場に開催する予定です。母校の「今」を見て下さい。

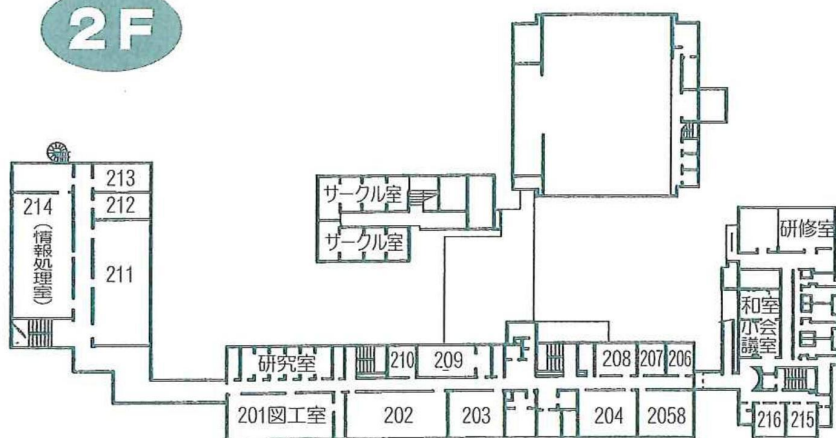
4F



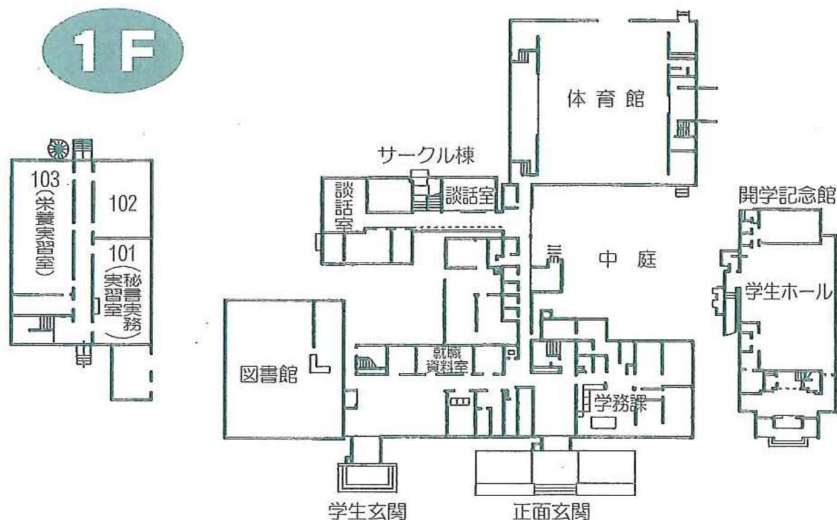
3F



2F



1F



國學院 短期大学の 今昔





学長メッセージ

昨年、短大は15歳になりました。昔風の言い方をすれば、元服の年を迎えました。そこで、10月10日から3日間「ありす祭」(大学祭)を開催し、この時期を中心にしてほぼ1年間に及ぶさまざまな企画をたて、開学15周年記念行事を行いました。

「ありす祭」は従来は学生会にお任せといった観がありましたが、今年は大学と学生とが一体になって企画をし盛り上げて行くといった新機軸をたてました。大学を一般の人々に知ってもらうためのオープン・キャンパスの試みも行いました。天候に恵まれない嫌いもありましたが、それでも活気に満ちた大学祭ができたと思います。これも「ありす会」から15周年記念事業のため心暖まるご援助を頂いた賜物と深く感謝しております。

「ありす祭」には父兄や一般の方々などかなり多数の来客を迎えることができました。これも例年にならぬ状況でした。ただ、私は一寸残念だと思ったことがあります。それは「ありす会」の会員の方々の参加があまり得られなかったことです。学生の家族や友人や一般の市民などもやって来てくれるのに、一番身近なはずの卒業生の方々が姿を現わしてくれない、後輩たちの活躍している様子を見に来てくれない、それは、正直言って淋しい気がしました。

私は先輩たちがやって来て、後輩を励ましたり、あるいは和やかな交流の風景があちこちに出現するのではないかと、ひそかな期待を懷いていました。私の30数年に及ぶ教師生活(國學院大學)の経験から、それは当然思い浮かべるので、ごく自然な想像でした。先輩・後輩の深い絆があるはずだ、清澄な自然環境、美しい校舎、そして母校に対する熱い思い出、それがあはずだ。私は正直そう思いました。

もし、私の期待が空虚なものであり、それが外的な空想に過ぎないものであったとすれば、それはこの上なく悲しいことです。そして、それが事実であるとすれば、それは由々しい問題です。卒業生が母校を訪れない。卒業生に母校に対する「帰属意識」がない。もし、そうだとすれば、その原因はどこにあるのか、深く反省し真剣に検討しなければなりません。

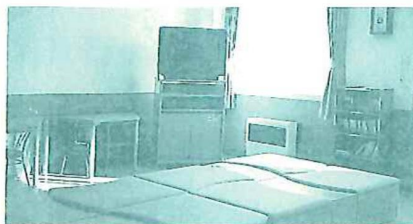
大学は現在厳しい社会情勢の中に曝されています。しかし、第一に考えなければならないのは、卒業生が喜んで訪れる母校の大学でなければならないということです。そうした大学に育てるために、ぜひ母校を訪ねて下さい。「ありす会」の大会が毎年、盛大に母校で開催されますよう、心から祈念しております。

母校を訪ねて下さい

國學院短期大学学長 倉林 正次



●サークル棟2F



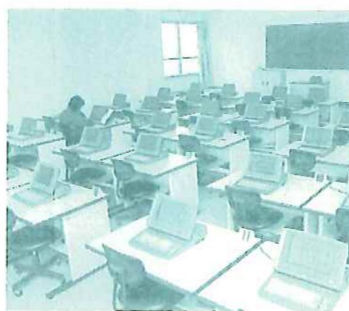
●談話室



●談話室(喫煙室)



●トレーニング室



●ワープロ室



●H3～H9年度の情報処理室



●幼児教育科多目的ルーム



●S60～H2年度の情報処理室

▼昭和五十九年三月に落成された開学記念館で、一期生の卒業謝恩会が行われた。三期生以降の方は、本校舎二階の図工室奥のあたりに学生食堂があったことを知らないように、一期生は、この開学記念館の研修室、会議室、学生ホールを知っている方は少ないのではないだろうか。

▼平成三年四月に落成された北側校舎へは本校舎二階から渡り廊下でつながり、二階には、四十台のパソコンを備えた情報処理室、同準備室、ゼミ室二室、一階には小児栄養実習室、秘書実務実習室、小教室が設置された。併せて、既存校舎の改修も行われ、テニスコート二面の増設等を含めた屋外施設の整備、中庭の整備も行われた。

▼平成七年四月に落成されたサークル棟は、その名のとおり、より活発な学生活動を支援するために建築された。一階にはテレビ、テーブル、ソファ、自販機等も設置されたゆりのスペースとして談話室二室(一室は喫煙可)、学生会室等が設けられ、二階にはサークル室十室が設置された。

Close up

弓道部の今昔



国文科6期生 撫養幸恵

弓道部創部の歴史は昭和57年に遡る。当時の部員数は4名。弓も何も道具一つもないまま市営の弓道場で練習させていただいていた。

昭和62～3年頃を撫養さんに、平成4～5年頃を松田さんにそれぞれ弓道部にまつわる思い出を寄せていただいた。

そして弓道場ができた現在の弓道部の活動を助川さんにうかがった。

国鉄が民営化し、JRへ社名が変わった頃、弓道部はたしか二年生四人と一年生は私を含め七人だったと記憶しています。(違っていたらゴメンなさい)

当時は今と違い、練習場もなく、滝の川運動公園にある市営の弓道場へ通っていました。(それも、建て直す前の古い建物です)

特別練習時間も決めていなくて、空いている時間に行っていたと思います。部の予算も少なかったため、部で所有しているものは弓が三本程と、巻簾(練習用のもののようなもの、藁でできている)が一つきりで、巻簾をのせるための台すらなかった程度です。

やはり、少ない予算で、物を買うには限度がありますので、その年のありす祭ではクレープとやきそばのお店を出し、売上で備品を買うようになつたようです。初年度はたしか「弓ちゃん」という名前の出店だった



英語科11期生 松田佳陽

私は第十一期の卒業生で、丁度短大が男女共学になって二年目の年でした。当然、当時はまだ男子生徒の数は大変少なく、約五十人ほどいたクラスの中に男子が五、六人、教室の片隅に固まって授業を受けていたのを覚えています。あまりの女性の多さに圧倒されて、はたしてこれから二年間、うまくやっていけるだろうか、入学当初は不安でいっぱいでしたけど、数週間もしないうちに男女共、友達がたくさんできました。早いもので卒業してもう四年が過ぎましたが、今でも当時の仲の良かった

友達と時々集まって飲むこともあるんですよ。

さて、在学当時、私は弓道部に入っていました。高校の時からせっかく始めた弓道を短大に入ってからでも続けたいという気持ちで入部したので、男子生徒で入部したのは私を含めたたったの三名。当時の二年の先輩方は全員女性で、はっきり言って男子単独で団体を組むことはできませんでした。男女混合か、または個人戦で学生の大会に参加しました。あとは、滝川市の弓道大会とか、昇段審査、他大学との練習試合、短大に泊まりがけで行った合宿など、サークル活動としてはとても充実していたと思います。

ただ、短大の中に弓道場がなかったの、歩くとても遠い滝の川公園内の市営弓道場に通って滝川弓道連盟の方々と一緒に練習していました。特にサークルの師範でもある長田さんには色々アドバイスをいただいていた。大変お世話になりました。夏は練習が終わった後、公園内でよく花火をして遊んでました。サークルは練習するのは当たり前ですが、それ以上に仲間たちと遊ぶのがすごく楽しくて、本当にこのサークルに入って良かったなあと思うようになってつくづくそう思うんです。

二年生の先輩方とも大変仲良くお付き合いさせていただきました。コンパはよく滝川で二番目に安い店でおなじみの居酒屋「やす」に行っていました。あの時は若かったんで、バンバン酒を飲み、みんな真つ赤な顔になって「出来上がつて」いましたよ。よく岡部部長さんと二人でTVの「たまに行くならこんな店」をやって結構アホなことをたくさんした

てたかなあ。それから時には顧問の秋元先生の「語り」(？)もあったりして・・・そうそう、二次会は「パロン」でカラオケというのがあの頃の定番でした。

ありす祭は、弓道部はずっと先輩方がたこ焼き屋をやっていたそう。その伝統を守ってたこやき屋の屋をやりました。当時、ありす祭は六月だったから、ちよつと肌寒かったけど、たこ焼きはたくさん売れて、もうかったお金でまたみんなでコンパやりました。今でも弓道部はたこ焼き屋をやっているのかなあ？

色々思い出してみると、國學院短大での二年間のサークル活動は自分



英語科15期生 助川貴子

にとってもすごく色々な面でプラスだったと思います。当時のサークル仲間は今でも数名とは連絡取り合っていますし、たまには会ったりして食事したり、飲みに行ったりして当時のなつかしい話をしています。ただ、みんな全国にバラバラになつてしまつたから、もう仲の良かった人達とみんなで集まることがそう簡単にできなくなつたのが少し残念ですね。

今、在学しているみなさんも卒業してからもずっといい仲間がいて、時には集まって昔の思い出話ができるような、そんないい付き合いができるようにサークル活動や残りの学生生活を送ってほしいと思います。

私達弓道部は二年生三名、一年生三名の計六名(本当はもっと部員がいたのに、気が付いたら六人しか練習に来なくなっていた...)で活動していました。けれど二、三年生はとっても仲がよくて、打ち上げの時なんかは「これでもか!」っていうくらい盛り上がるんですよ。

なかなかいい雰囲気。私達は、学内にできた「青島弓道場」(実は射場は屋根がないんですが)を使い五月、九月の中旬までお日さまと友達になりながら(日焼けしながら)練習します。それ以降は滝の川運動公園内の市営弓道場へ、自転車に弓を持って乗る」という絶対誰もしない(できない...)神業で移動して試合形式





源さん夫妻が市内二の坂町に学生アパートを始めたのは昭和五十八年。当時は女子短大であり、入居者はもちろん女子学生のみだ。アパートを始めた頃は短大から遠いこともあり、不安もあったが逆に「静かだし、溜まり場になりにくい」から入居を希望する学生が多かったという。

現在まで二百人近い学生を見てきた源さん夫妻。昔と今の学生についてたずねると、「昔はとにかくはたからでもわかるほど勉強がしたい、自分を高めたいという欲求が一番。生活の質は二の次。今は勉強はもちろんだけど、生活水準も高くしたいっていう気持ちも強い」という。人間関係については「今の学生さんはすごくあっさりしてる。ふみこんだ人間関係が苦手みたい。友達同士の仲はいいんだろうけど、年々コミュニケーションが希薄になってきたかな。単におとなしい、物静かっているのではなく淡々とソツなくこしている感じ」がするという。また、「昔の学生さんは不器用だったけど、何事も前向きな姿勢で一生涯懸命さが伝わっ

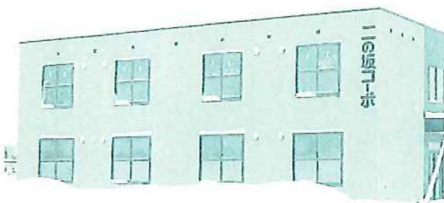
—大家さんから— 見た 学生今昔

てきた。最近の学生さん本質は昔と変わっていないだろうけど、あまり表に出さないだけだと思う。良くも悪くも器用なんだね、きっと。でも何か物足りない感じがする」と語る。

いつも本音で学生と向き合いたいという源さん夫妻。一人暮らしをはじめた学生に時には親になり、友になり接してきたという。社会人になってからフランクとアパートに寄ったり、結婚して子供と一緒に遊びに来てくれる子が多いし卒業しても節目節目に連絡をくれたりするのは本当に嬉しい。人生の中ではほんの短い期間だけれど時間を共有して思い出がふえるのは楽しいこと。これからの学生さんには夢中になれるものを見つけてほしい。感動や達成感をたくさん味わって自分を磨いてほしい。影ながら見守っていきたいと思います。汗にまみれてがむしゃらだった時代から、スマートで淡白な時代になったのかもしれない。でも時代は変わっても忘れてはいけないもの、変わらないもの。源さん夫妻の話はそれを

もう一度思い出させてくれた気がする。

短大時代の思い出は学校での出来事ばかりではない。親元を離れて暮らしている学生が多い本学。生活の基盤ともしえるアパートや下宿。今回は市内でアパートを営む源紀男さん千恵子さん夫妻に学生の昔と今をうかがった。



サークル活動の今昔

昭和57年
硬式庭球同好会 バスケット部
ソフトボール同好会
剣道部 創作研究会
羽球部 軟式庭球同好会
茶道部
フォークソング同好会
弓道部 排球部
華道研究会 軽音楽同好会
C. R. R
ジャズダンス同好会
ESS ワンダーサークル
口承文芸研究会 N. S. C同好会
演劇同好会
なんでもチャレンジクラブ
アースティックサークル
アニメーション&漫画研究会
ロック同好会
Musical Company
人形劇同好会
児童文学研究会

昭和62年
羽球部 排球部
バスケットボール部
ソフトボール部
剣道部 硬式庭球同好会
スキー部 アーチェリー同好会
サイクリング同好会
弓道部
ジャズダンス同好会
M. Sサークル
ゴルフサークル
人形劇クラブ
福祉問題研究会
新聞部 演劇研究会
華道部 茶道部
書道研究会 口承文芸研究会
ESS 放送広告研究会
アースティックサークル
軽音楽同好会 パソコン研究会
日本語学研究会
児童サークル 映画研究会
箏曲研究会 文芸部

平成3年
剣道部 羽球部
排球部 バスケットボール部
ピンポン同好会 硬式庭球部
ソフトボール同好会
軟式テニス部 Let's dancing
スキー部 M. Sサークル
サイクリングサークル
アーチェリー同好会
ゴルフ同好会 弓道部
ラグビーサークル
サッカー部 野球部
美術部 華道部
軽音楽同好会 口承文芸研究会
書道部 茶道部 ESS
パソコン研究会 福祉問題研究会
演劇研究会 童謡サークル
文芸部 易学研究会
日本舞踊同好会 桜桃会
櫻乱房 HALF TIME
チャイルド・ワールド
お料理サークル

平成9年
剣道部
羽球部 (女子) 羽球部 (男子)
排球部 (女子) 排球部 (男子)
バスケットボール部 (女子)
バスケットボール部 (男子)
ソフトボール部 弓道部
スキー部
硬式庭球部 (女子)
硬式庭球部 (男子)
Let's dancing
ラグビー部 サッカー部
軟式野球部 太極拳サークル
格闘技研究会 華道部
軽音楽同好会 口承文芸研究会
書道研究会 茶道部
福祉問題研究会 演劇研究会
お料理サークル
チャイルド・ワールド
漢文研究会 煎茶部
絵本研究会 文芸部
吹奏楽団

(順不同)

再びのありす会



会長 榎戸 里也子

さて既会員の方はすでにご存知でしょうが、あらためてありす会についてご説明いたします。

ありす会は國學院短期大学および同専攻科を卒業された方を会員とする同窓会機関です。詳しくは本会規約にも記載されていますが、主に奨学金の支給、ありす文庫の寄贈（図書館内）、学校記念行事への協賛、ありす祭への協賛、会報・名簿の発行など会員相互の親睦だけではなく母校である國學院短期大学の発展と在学生の支援を目的とした事業を行っています。

十五期生の皆さん、専攻科三期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日の佳き日を迎えられたこと、ご家族の皆様もさぞよろこびのことと存じます。また同時に皆さんが晴れてありす会の会員になられたことは私たちにとても大きな喜びです。ここに会を代表して心からの歓迎とお祝いを申し上げます。

ています。もちろんこれらの事業は私をはじめとする役員や事務局のメンバーだけで決めている訳ではありません。会員、学校関係者の皆さんのご意見やご提案をうかがいながら検討を重ね、実行に移していくものです。これからも皆さんの声を反映させながら運営していきたいと思っています。

また同窓会についてですが、これは全卒業生（生会員）を対象として毎年一回開催され、同時に本会の総会も行なう大がかりな催しです。この件につきましては、現在の本会の状況と共に皆さんにご理解いただきたい事も含め、ご説明いたします。

まず十三、十四期生、専攻科一、二期生ならびに毎年同窓会を楽しみに待っていて下さった会員の皆さんに、平成八、九年度の二年に亘り、総会・懇親会を開催できなかったこと、この場をかりておわび申し上げます。規約を遵守、遂行できなかったのは、いかなる事情があろうと、私の責任であり申し訳なく思っております。皆さんの中には役員に対して不信感を抱く方もいらっしゃると思います。ですがぜひご理解していただきたい事があります。

現在ありす会は事務局二名と役員によって運営されていますが、実業務のほとんどを事務局に委ねています。これは機関の性格上、学校にいなれば得られない情報が多いこと、連絡の行き違いを防ぐことなどの理由から事務局に業務が集中してしまうのです。これらを緩和させる

ためには今のところ、本来の仕事に支障をきたさないよう、時間的に余裕をもって準備を始め、役員と事務局との連絡を密接にし、外部企業に発注できる作業、分担できる作業は役員も分担するという事で解決していくしかりません。四千余人の会員に対して受け皿が二名というのは不安に思う方がいらっしゃるでしょうし、年々会員数も増えていきます。このまま進んでいくと、いつかありす会が倒れてしまうかもしれません。私たちがせつなくともったありす会の灯を消さないために暗中模索しながらがんばっているところです。過去二年間の不始末を真摯に受けとめ、二度と同じあやまちを繰り返さないように努力していきたいと思っています。

私は以前、「私たちのありす会と呼べる会をつくるために、のんびりとまわり道をしたりしながら、でも確実に前に向かって進んでゆきましよう」と申し上げました。今もその気持ちは変わっていません。まだまだ不安定なところもありますが、確実に足場をかためながら、将来皆さんに國學院短大が大好き、「同窓会」の案内がくるの楽しみ」と言っていただけのような頑張ります。どうぞ現状をご理解の上、あたたく見守って下さいませ。早いもので本会も平成十一年度には設立十五周年を迎えます。記念事業も考えておりますが、皆さんからいただく皆さんのご意見、ご要望をお寄せ下さい。お待ちいたしております。最後に皆さんのご健康、ご多幸を祈念して、挨拶とさせていただきます。

平成9年度國學院短期大学ありす会予算書

平成8年度國學院短期大学ありす会決算書

平成8年4月1日から平成9年3月31日まで

これからの活動予定

- ・ 3月
 - 卒業式（役員出席）
 - 卒業祝賀会後援
 - 入会記念品贈呈
 - 会報10号発送
 - ありす文庫図書寄贈
- ・ 4月
 - 新役員選出
- ・ 5月
 - 新会員名簿作成
 - ありす会奨学生募集
- ・ 6月
 - 第1回役員会開催
- ・ 8月
 - ありす会総会案内発送
- ・ 10月
 - ありす会総会開催

収入の部 (単位:円)

科 目	9年度予算	8年度予算	増 減
1. 同窓会費収入	4,920,000	5,700,000	-780,000
2. 受取利息収入	302,675	509,235	-206,560
3. 教育振興基金繰入金	1,500,000	0	1,500,000
4. 前年度繰越金収入	37,077,325	32,790,765	4,286,560
合 計	43,800,000	39,000,000	4,800,000

支出の部 (単位:円)

科 目	9年度予算	8年度予算	増 減
1. 事務費支出	3,100,000	1,940,000	1,160,000
イ. 用品・備品費支出	50,000	20,000	30,000
ロ. 印刷・製本費支出	2,000,000	1,000,000	1,000,000
ハ. 通信・運搬費支出	1,000,000	900,000	100,000
ニ. その他事務費支出	50,000	20,000	30,000
2. 旅費・交通費支出	200,000	150,000	50,000
3. 会費支出	1,500,000	1,100,000	400,000
4. 雑支出	500,000	500,000	0
5. 補助費支出	1,500,000	300,000	1,200,000
6. 奨励金支出	500,000	300,000	200,000
7. 協賛金支出	1,600,000	100,000	1,500,000
8. 奨学金支出	300,000	300,000	0
9. 教育振興基金繰出金	600,000	600,000	0
10. 事業振興基金繰出金	600,000	600,000	0
11. 予備費	300,000	300,000	0
12. 次年度繰越金	33,100,000	32,810,000	290,000
合 計	43,800,000	39,000,000	4,800,000

同窓会教育振興基金明細
繰越金 2,425,800円
当期受取額 600,000円
当期受取利息 8,571円
合 計 3,034,371円

同窓会事業振興基金明細
繰越金 4,045,663円
当期受取額 600,000円
当期受取利息 16,136円
合 計 4,661,799円

収入の部 (単位:円)

科 目	8年度予算	8年度決算	増 減
1. 同窓会費収入	5,700,000	5,685,000	15,000
2. 受取利息収入	509,235	273,860	235,375
3. 雑収入	0	210,900	△210,900
4. 前年度繰越金収入	32,790,765	32,790,765	0
合 計	39,000,000	38,960,525	39,475

支出の部 (単位:円)

科 目	8年度予算	8年度決算	増 減
1. 事務費支出	1,940,000	199,778	1,740,222
イ. 用品・備品費支出	20,000	0	20,000
ロ. 印刷・製本費支出	1,000,000	127,102	872,898
ハ. 通信・運搬費支出	900,000	0	900,000
ニ. その他事務費支出	20,000	72,676	-52,676
2. 旅費・交通費支出	150,000	16,580	133,420
3. 会費支出	1,100,000	0	1,100,000
4. 雑支出	500,000	66,842	433,158
5. 補助費支出	300,000	0	300,000
6. 奨励金支出	300,000	0	300,000
7. 協賛金支出	100,000	100,000	0
8. 奨学金支出	300,000	300,000	0
9. 同窓会教育振興基金繰出金	600,000	600,000	0
10. 同窓会事業振興基金繰出金	600,000	600,000	0
11. 予備費	300,000	0	300,000
12. 次年度繰越金	32,810,000	0	32,810,000
合 計	39,000,000	1,883,200	37,116,800

【収支差額】
収入総額 38,960,525円
支出総額 -1,883,200円
差引残額 37,077,325円

【預金状況】
普通預金 7,439,081円
貸付信託 28,550,000円
金銭信託 1,088,244円
37,077,325円

Member's interview 1

吉田 直子さん

役者(フリー)
北海道を中心に活躍中
(昭和63年3月 国文科卒)

「北海道を拠点に舞台を作っていきたい」と力強く語る女性がいる。国文科五期生の吉田直子さん。本学を卒業後、東京の舞台芸術学院演劇科に入学。同校卒業後は故・金杉忠男氏に師事し中村座の公演に出演。その後文学座附属演劇研究所に入り、平成五年同所を修了し、北海道へ戻ってきた。平成八年には北海道演劇財団が主宰するTPS（シアタープロジェクトサッポロ）の一期生に名を連ね、プロの役者としてスタートを切った。「若草物語」「銀河鉄道の夜」など出演多数。現在フリーで活躍中。



——短大を卒業して演劇の道を選んだのはなぜですか。
吉田 幼い頃から舞台が好きだったんです。中学・高校と演劇部に入っていたのですが、短大では勉強をしたかったので、絶対演劇はやりなと決めていたんです。幸い演劇のサークルはなかったのでホッとしていたら、同期で演劇研究会を作るから協力してくれと言われて、入ってしまったんです(笑)。結局演劇からは抜けられませんでした。それでどうせやるならと思ってます卒業してから東京の舞台芸術学院に入学したんです。

——そこではどんな事を学ばれたのですか。
吉田 私が入ったの演劇科で主に舞台俳優を養成するコースです。基礎からみっちり仕込まれました。

——故・金杉忠男氏との出会いもその頃と聞いていますが。
吉田 はい。舞台芸術学院を卒業する時に、いわゆる卒業公演なんですが先生の主宰する中村座のプロデュー

——短大を卒業して演劇の道を選んだのはなぜですか。
吉田 幼い頃から舞台が好きだったんです。中学・高校と演劇部に入っていたのですが、短大では勉強をしたかったので、絶対演劇はやりなと決めていたんです。幸い演劇のサークルはなかったのでホッとしていたら、同期で演劇研究会を作るから協力してくれと言われて、入ってしまったんです(笑)。結局演劇からは抜けられませんでした。それでどうせやるならと思ってます卒業してから東京の舞台芸術学院に入学したんです。

ス公演「胸さわぎの放課後」に出していたのがきっかけです。私はとても先生の影響を受けましたし、現在こうして役者としていられるのも先生のおかげだと思っています。残念ながら先生は昨年(平成九年)に亡くなりました。でも私はこれからも先生を目標にがんばっていくつもりです。

——北海道に戻ってきてTPSの一期生になられて、本格的にプロの役者として活動を始められましたが。
吉田 北海道に戻ってきてしばらくした時に、以前からずっと観たいと思っていた舞台が札幌で上演されたんです。その時ももらったチラシの中にTPSの「若草物語」のオーディションがあったんです。それで受けて合格したまではよかったんですが、皆さんまわりはプロの方ばかりで素人は私だけだったんです。正直言っ

てその時の稽古はつらかったですね。たくさん失敗もしました。でもその経験が今では全部私の中で役立っています。

——これからの活動予定は。
吉田 今年一本舞台を打たれたいと思っています。今は役者にとらわれずに脚本を書いたり、演出もしたりしています。将来は札幌だけにこだわらず道内のいろいろな場所で舞台をやりたいと思っています。子供もお年寄りもみんな楽しんでもらえる舞台ができれば最高ですね。

——ありがとうございます。
——ありがとうございます。

演劇は私にとって恋人よりも大切なもの。演劇は空気のようにあつてあたりまえのもの——インタビューの間中様々な表情で答えてくれた吉田さん。現在は石狩野外劇の脚本を手がけており、その準備に忙しいという。また今秋から「若草物語」全国公演の出演が決まっている。

本学出身の演劇界の大きな金の卵。役者だけではなく舞台人、演劇人としてのこれからの吉田さんの活躍に期待し、注目したい。



「若草物語」の舞台にて、右から2番目が吉田さん

'97ありす祭見学記

秋田 谷

まり子

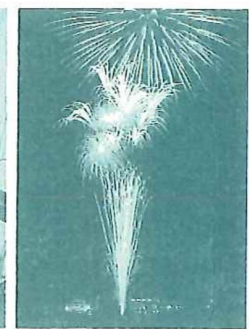
(平成六年三月 英語科卒)
國學院大学 広報部 勤務



でも忘れられない記念のありす祭であった。期間中行われた各学科の催し物を、これほどじっくり見たことは、正直言っただけだったので、今回は学生の頃とはまた違った視点で母校を見てみる良い機会であった。みなさんも、自分が通っていた学校はどんな学校だったのか、どんな学校になったのか、久しぶりに訪ねてみてはいかがでしょうか。

今回、ありす祭を取材するため卒業以来四年ぶりに母校を訪れた。まさか四年後に、公務で母校を訪れることができるとは思っていなかった。で大変嬉しかった。あくまでも目的はありす祭の取材だったのだが、お世話になった教職員の方々や懐かしい友人にも再会でき、楽しい二泊三日だった。

四年ぶりの母校で一番驚いた変化は、校内が土足解禁になっていたことだ。私が学生の時は上履きに履き替えなければならなかったため、ロッカーの狭い通路を肩をぶつけ合いながら、格闘していたものだった。しかし、そのロッカーも取り去られ、出入りしやすい、広々とした玄関に変わっていた。また、校内を歩いている時、すれ違うほとんどの学生が教職員の方に挨拶をしたり、話しかけている光景をよく見かけた。教職員と学生の距離が近く、このようなアットホームな雰囲気も、少人数だからこそ、学生一人一人にゆき届いた指導をしていたという教育方針が浸透しつつあることを感じた。開校十五周年を迎えた記念すべき年に母校を訪れることができ、私にとっ



『子連れ留学ハクナマタタ』

昭和五十九年英語科卒 藤岡 順子

去る平成九年十二月に開催された英語科研究発表会で、一期生の藤岡順子氏がお子さんを伴って渡米し、スプリングフィールド大学への編入、さらに大学院への進学、修了を果たされた体験をもとに講演された。好評を得た講演の要旨を「寄稿願った」。



「君それは酸素ボンベを持たずにエベレスト山に登ろうなものだよ。」子ども三人連れて留学するつもりだと言った私にスプリングフィールド大学の教授はこう答えました。その言葉にもめげず私は一九九四年一月成田を飛び立ち、スプリングフィールド大学に編入し老人学を学び始めたのでした。ほとんどの科目が一つの学期（四カ月）で完結するアメリカの大学システムは、次の学期はまたまったく新たな科目に取り組みなくてはならず留学の最後まで楽になるということはありませんでしたが、ノートのとりかたやレポートのための資料集めが少しは要領よくなっていったようでした。

二年でスプリングフィールド大学



「娘たち」 幼児教育科 黒阪陽一教授作品 130.3×130.3cm・1996

卒業に必要な単位を取り終え、大学院は隣のコネチカット州のセント・ジョセフ大学に進むことにしました。この老人学のコースは Human Development というよになつていて、老人を人間の一発達段階と捉える大変興味深いものでした。クラスメートも20代から50代まで幅広く、中には他の大学で教えている人が遠う分野を学ぶためにこのコースをとっていたりしたので、主にディスカッション形式で進められる授業は時として誰が生徒か先生かというふうにもなるのでした。そんなクラスメートについていくのはそれはそれは大変なことでした。

一九九七年五月無事修士号を手

し、六月子供たちの学年度が終わるのを待ち帰国しました。渡米時十一歳、九歳、七歳だった子供たちはアメリカでそれぞれ三度ずつ誕生日を迎え肉体的にも精神的にもずいぶん成長しました。新しい年を迎え今は学んだ事を活かせる道を模索中です。

なお、講演の詳細については、たしかわづれていん12号に掲載される予定です。

創立十五周年記念

「論文・創作コンクール」について

創立十五周年記念行事の一貫として、国文科卒業生および在学生を対象とする「論文・創作コンクール」を実施しました。七月に案内を発送し、九月二十日締切というスケジュールにもかかわらず、小説十三人、詩八人、エッセイ一人、論文一人の応募を得ることができました。選考の

結果、受賞作品を次のように決定しました。

研究論文部門

「滝川国文」 奨励賞

（賞状・賞金一万円）

「風の歌を聴け」 論一正常と異常の狭間で―三原千春

文芸創作部門

「滝川国文」 優秀賞（賞状・賞金三万円）

小説「いなびかり」 屋敷亜紀子

「滝川国文」 奨励賞

小説「ジャム」 中塚由樹子

小説「アイリッシュ」 高島希美子

小説「入れ墨」 枝谷恭子

詩「トマト」 小原奈美

創作部門の入賞作品のうち数編は、三月発行の「滝川国文9」に掲載する予定です。

両部門共に最優秀賞がなかったことなど残念な面もありますが、創作部門に予想を超える応募を得たことや、作品は送れないが案内が嬉しかったという声が寄せられて、教員一同初めての試みとしては満足し、感謝しています。できれば今後も続けたいと考えていますので、ご意見を国文学会にお寄せください。

（国文科教授安田義明）

証明書について

卒業後に就職等の都合で諸証明書が必要となり短大窓口に来られない場合は、次の要領で申し込み下さい。

氏名・卒業年度・学科・生年月日・本籍地（都道府県色）・必要とする証明書何通と明記し、証明書代金と返信用封筒（切手貼付）を短大事務課宛に送付して下さい。（卒業証明書単位成績証明書は一通二百円です。）

INFORMATION

シンボルマーク募集

短大十周年記念の時、学生委員会企画で短大シンボルマークの募集を行ったのを覚えていらっしゃる方はいますか？ あります。平成十一年に創立十五周年を迎えます。これを記念して会員の皆様からの作品を募集します。会報や封筒などのカットなどにも使える素敵な作品を期待します。

●用紙のサイズはA4・A3サイズ

●締切日は平成十年九月末日

応募者にはテレホンカード、入賞者には記念品を贈呈いたします。なお、入賞者発表は平成十年十月あります総会で行います。たくさんの方々の応募をお待ちしています。

住所変更の連絡を

住所変更された場合は、短大あります事務局までご連絡下さい。会員番号（封筒住所シールに記載されている六桁の数字・氏名・新住所・郵便番号・電話番号・就職先に変更があった場合は就職先等葉書にてお願いします。

祝電プレゼント

結婚がさまたった場合は、短大あります事務局までご連絡下さい。さややかですが祝電をプレゼントします。挙式日程・会場等とあわせて姓名・住所変更等の連絡もお願いします。

今号の発刊にあたりご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。また本会についての「意見・ご要望等」も是非お寄せ下さい。